

# みやぎ地域復興支援事業 (平成27年度) 実施事例紹介

平成27年10月

震災復興・企画部地域復興支援課  
復興支援第二班

# 目次

1. 一般社団法人 キャンナス東北
  - \* 「おらほで生きる」ための地域のちからサポート事業
2. 特定非営利活動法人 海べの森をつくろう会
  - \* ころの故郷プロジェクト
3. 山元の未来への種まき会議
  - \* 山元町における地域団体・NPO向けの  
運営サポート拠点創出, 新規事業者創出事業
4. 特定非営利活動法人 底上げ
  - \* 気仙沼・南三陸における自らの問題意識に対し  
主体的に行動を起こす子どもの育成
5. 特定非営利活動法人 びば！！南三陸
  - \* 南三陸町のいぶし銀な人材育成プロジェクト
6. 公益財団法人 シャンティ国際ボランティア会
  - \* あつまれ, 浜わらす！
7. 任意団体 あすと長町コミュニティ構築を考える会
  - \* 仮設から復興公営住宅への支援を契機とした  
NPOと自治組織の連携による新たな共助体制の構築
8. 一般社団法人 はまのね
  - \* 持続可能な浜づくり  
～地域資源を活用したものづくりと人をつなぐ～

# 「おらほで生きる」ためのちからサポート事業 ～自主活動支援と社会資源が少なくても成り立つ地域づくり～

福祉・保健  
医療

人材育成・  
自立支援

事業主体：一般社団法人 **キャンナス東北**

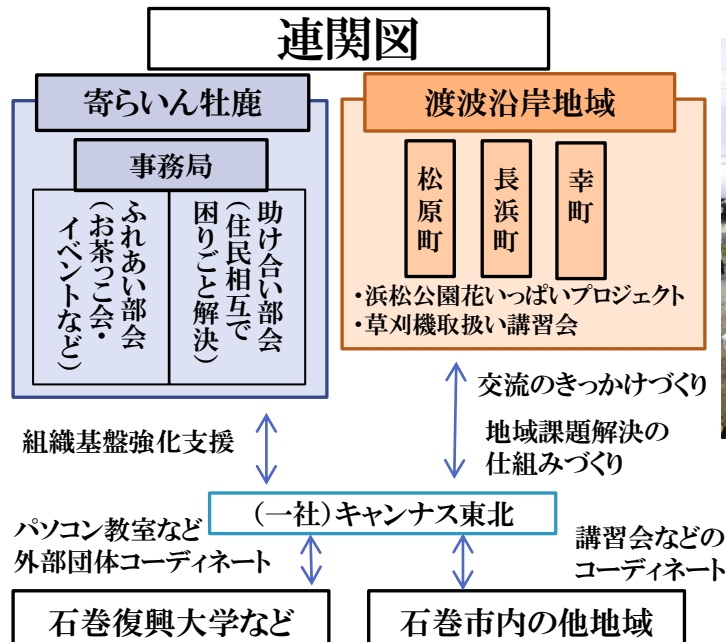
## 復興支援の概要

石巻市牡鹿半島は、震災後に若者の流出が加速し、水産業の衰退、担い手不足が続く一方、高齢者における地域での役割が喪失し、居場所がなくなっている現状がある。このような中、2014年4月に地域の居場所づくり、水産業・観光業との協働、住民の困りごとを住民が相互に解決する活動などを行う、住民支え合い団体「寄らいいん牡鹿」が設立された。メンバーは70代が多く、組織基盤強化や事業の骨組みが必要となっている。そこで、当団体としては全国の支援団体や住民組織をコーディネートするなど「寄らいいん牡鹿」の組織基盤強化を図っていく。

石巻市渡波沿岸地域は、震災後世帯数が増えず、1行政区10世帯未満のところもあり自治会機能が停止、住民同士が集える場や交流の機会もほとんどない。また、広大な住宅地跡には雑草が伸び、ゴミのポイ捨てや不法投棄などの問題もある。これらは渡波沿岸3行政区に共通する課題であるが、1区だけではマンパワーや予算に限界があり継続していくことが困難。そのため、まずは区を越えた住民交流のきっかけづくりや、住民自身が地域を語る場の提供を行っていく。

これらの2地域の活動を通し、過疎地における高齢者主体の地域課題解決モデルを確立するとともに、人口が流出し、社会資源が少なくとも成り立つ地域づくりを目指す。

## 連関図



2015. 8月  
草刈機取扱い講習会(渡波地区)  
を通し、地域課題を解決し  
地域交流を促した



2015.8月  
地域お茶つこ会(寄らいいん牡鹿)  
月1回開催

## こころの故郷プロジェクト

～子ども達に地域の文化や自然環境の保護活動を通じて  
健全な心と優しさを養う機会を提供～

地域活性・  
まちづくり

教育・  
子育て

農業

事業主体：特定非営利活動法人 **海べの森をつくろう会**

### 復興支援の概要

気仙沼市階上地区は岩井崎の潮吹き岩やお伊勢浜海水浴場など、観光地としても市民に愛された場所だったが、震災で観光施設や民宿は流され、100名以上の住民が亡くなった。

復興は道半ばであり住民が戻れるのはまだまだ先。一方、地域に残った子ども達には多くのひきこもりが見られ、地域住民からは本来の生活を取り戻せる環境づくりと、子ども達に希望を与える場づくりをしてほしいという声が上がった。

海岸近くに植林・整備してきた野外コミュニティ広場や三陸ジオパーク、潮風トレイルを活用して子ども達に地域の文化や自然環境の保護活動を通じて健全な心と優しさを養う機会を提供する。具体的には、次のような活動を家庭・地域・学校・支援団体が連携して実施する。

- ① 野外体験学習(自然観察・農業体験・食育など)
- ② ワークショップ(交流の場づくり, 耕作放棄地活用検討, 成果確認と次年度計画づくりなど)
- ③ 交流会(植樹祭, 収穫祭, 芋煮会など)

また、これらの活動を支えてくれる年間約400名のボランティア受入を行う。

子ども達が地域の自然や暮らしを再認識し、大人になってもこの地に戻ってくることを願い、また、被災地の諸問題(人口減少, 産業衰退, 耕作放棄地など)への取り組みとして、地域再生の緩やかなモデルとなることを目指す。

### 連携図

特定非営利活動法人  
海べの森をつくろう会

地域・住民

連携

各種プロジェクト

組織・団体名	事業における役割
NPO法人山の自然学クラブ	育苗・農場管理、自然学習指導
弘前大学	ジオパーク観察指導
北里大学	海の生き物観察指導
森林インストラクター協会	海岸で植物観察指導
NPO法人グランドワーク三島	トータルコーディネート
NPO法人かながわ311ネットワーク Project 架け橋	ボランティア手配
志ネットワーク青年塾	
株式会社北都グリーン	植樹地の造成協力
ホームマック株式会社	植樹指導
イオン(株)	植樹祭全般に亘る協力



2015. 8. 16  
海の生き物観察会



唐桑で採取した種子から育てた苗

## 山元町における地域団体，NPO向けの 運営サポート拠点創出，新規事業創出事業

地域活性・  
まちづくり社会的  
事業支援

事業主体：山元の未来への種まき会議

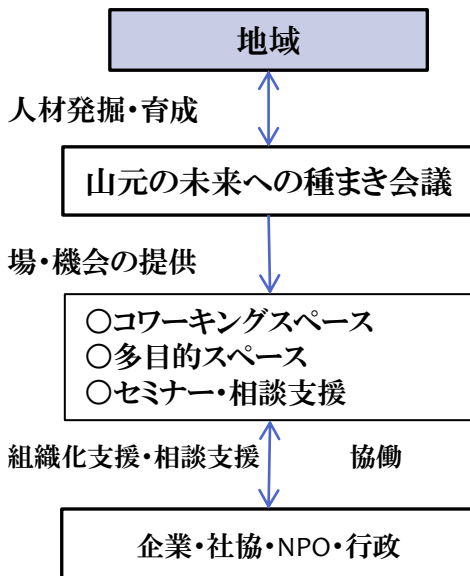
### 復興支援の概要

山元町では震災前から、中間支援機能を持つNPOなどの組織体が少なく、震災時に全国から届けられたハード・ソフト両面の支援をどのようにコーディネートするかという課題が表面化した。そこで地域コーディネートおよび団体間の情報共有を行うため、住民発の「山元の未来への種まき会議」を発足させた。この山元町で活動する団体のサポート、住民自らが地域の支援サービスの担い手として活動していくための環境整備として次の事業を行う。

- ①住民参加型のコワーキングスペース運営事業
- ②多目的スペースの提供事業
- ③伴走型地域住民団体支援および、専門家によるサポート事業

上記の活動を通して、参加している団体、個人がこのネットワークを活用して活動・起業し、より主体的な役割を持って地域づくりおよび地域活動に参画して山元町を活性化させ、住民が自ら地域の課題解決のための啓発活動をサポートするとともに、地域の担い手人材の発掘・育成を行い事業者の育成と地域課題の改善を目指す。

### 連携図



2015. 09. 13 第15回山元の未来への種まき会議

山元の未来への  
種まき会議  
新拠点「なわっしょ」



# 気仙沼・南三陸における自らの問題意識に対し 主体的に行動を起こす子どもの育成

～高校生が大人になってもまちに関われる人材に育つ環境の提供～

地域活性・  
まちづくり教育・  
子育て

事業主体：特定非営利活動法人 底上げ

## 復興支援の概要

「わたしもまちの為に何かしたい」と高校生が言った。その想いをサポートする大人は少なく、子どもの声がまちづくりに反映される機会は少ない。被災地で高校生が主体的にまちの課題に取り組むことをサポートし、彼らがまちと共に成長していく環境を作りたい。

高校生が地元を意識に向け、主体的に行動し、声を挙げて新しいことに取り組み、大人になってもまちに関われるような人材に育つ環境を作る。具体的には、

- ①フリースペースの提供(想いを聴き、お互いの信頼を醸成する場)
- ②子ども会議の開催(高校生がまちのことを話し合う場)
- ③想いを形にするサポート(新事業立ち上げ、参加者の拡大支援など)
- ④まちづくりへの反映サポート(関係団体との連携、調整の支援など)

観光プログラムづくりなど事業を行う場合はアンケートで課題を明確化する。また、取り組みは地域や行政に報告・提案する。他地域に進学したメンバーも観光プロジェクトに主体的に関わる。

活動によって課題解決力、行動力、リーダーシップ、そして郷土愛を育み、卒業してもまちの発展に継続的に貢献していく人材育成を目指す。

## 連関図

地域

課題発掘  
検討・提案・解決

～ 高校生の活動 ～  
気仙沼高校生団体「底上げYouth」  
南三陸高校生団体「COM」  
学習コミュニティ支援

「場」づくり・活動支援

(特非)底上げ

2015. 8. 16  
沿岸地域高校生交流会気仙沼、南三陸、宮古  
などから集まった高校生

今日のテーマは  
「自分たちで東北の未来を  
つくっていくために」



# 南三陸町のいぶし銀な人材育成プロジェクト

## ～エコ平板で高齢者の生きがいつくりと収入確保～

社会的  
事業支援福祉・保健  
医療人材育成・  
自立支援事業主体：特定非営利活動法人 **びば！！南三陸**

### 復興支援の概要

南三陸町では、未だ多くの町民が仮設住宅での生活を続けており、特に高齢者は独居や外出機会の減少などで多くの問題を抱えている。町のシルバー人材センターも閉鎖されたままだが、びば！！南三陸はその後継団体として2013年から活動している。

そのような中、これまで試験的に進めてきた「エコ平板\*1」づくりを通して、地域住民の生きがいつくりと収入の一助とする活動を本格化させる。

- ①週3回のエコ平板創作体験講座や出張体験会を開催し、また活動普及の広報も行う。
- ②熟練者や左官経験者にはエコ平板の施行（オブジェや壁面、床面）講座も実施。
- ③作品の展覧会や活動写真展を開催し、また活動の記録誌も作って活動の周知を図る。

メンバーの健康状況の把握にも留意・工夫しており、これらを活かした新しい概念の高齢者の生きがいつくりの枠組みを目指す一方、手編みの籠づくり、テーブル製作、陶芸などでは子どもを含む一般住民の生きがいつくりの場も提供していく。

\*1エコ平板：建築廃材のタイルや石、レンガ、瓦などを砕きコンクリート板の上に貼り、色彩豊かなモザイク模様を作り出すアート。

### 関連図

地域住民

生きがいつくり  
収入・健康確保

特定非営利活動法人  
びば！！南三陸

連携・協力

施設、活動・運営サポート

～南三陸町～  
産業振興課  
保健福祉課  
総務課

特定非営利活動法人  
ピースウィンズ・ジャパン

2015. 8. 25  
床面への施工講座

2015. 8. 5  
創作体験講座  
エコ平板づくり

完成した床面アート↓



# あつまれ、浜わらす！

～自然体験プログラムで浜の文化と知恵を継承～

教育・  
子育て人材育成・  
自立支援

事業主体：公益社団法人

シヤンティ国際ボランティア会

## 復興支援の概要

気仙沼市の震災復興計画の主題は「海と生きる」である。地域の歴史は海に寄り添った暮らしが培った浜の文化である。しかし震災以降、海と被災地の人々の関わりは薄くなった。次世代を担う子ども達が、地元で安心して暮らして行くには、自然体験や海辺の活動を通じて浜の文化や暮らしの知恵を学ぶ機会が必要である。

その機会として子どもの自然体験プログラム「あつまれ、浜わらす！」を開催する。市内の小学生を対象に、地域住民の達人が浜辺の暮らしと文化を教え、子ども本来の生きる力を引き出し、地域の世代間交流も促す。内容は生き物観察や田植え、いかだづくり、砂の造形、収穫祭、また自分達で来年度の企画づくりも行う。プログラム内容は「海辺の技ガイドブック」としてまとめる。

さらに、このプログラムを地元の人達が運営・継続できるよう、その体制と人材づくりを行い、「まちづくりのしくみ」として地元に残す。

当法人は震災直後より被災地の支援活動を行ってきたが、直接的な活動は今年度一杯で終了となる。地元メンバー中心に今後も「あつまれ、浜わらす！」が継続できるようにすることを目指す。

### 関連図

住民・子ども達

「あつまれ浜わらす」  
浜の文化と知恵の継承  
世代間交流

公益社団法人  
シヤンティ国際ボランティア会

連携・協力

資金提供

～気仙沼市～  
地域づくり推進課  
社会福祉協議会  
～本吉地区～  
漁協、自治会他

JCCNC  
地域創造基金さなぶり  
日本国際交流センター  
TOTO UNION



2015. 8. 8  
あつまれ浜わらす  
～夏休みスペシャル～  
「いかだづくり」



2015. 6. 13  
サバイバル塾パート1  
「米づくり」





# 仮設から復興公営住宅への支援を契機とした NPOと自治組織の連携による新たな共助体制の構築

地域活性・  
まちづくり社会的  
事業支援

事業主体：あすと長町コミュニティ構築を考える会

## 復興支援の概要

あすと長町仮設住宅団地では、多くの地域から集まった被災者達が良好なコミュニティを形成してきた。近隣の3つの復興公営住宅に移転・入居しても、高齢者などが安心して暮らせるよう、他地域からの入居者を含めた新たなコミュニティ・共助体制を作らなければならない。

3つの復興公営住宅(計326戸)各々の新たなコミュニティ形成とその連携、また、NPOや大学などの支援団体、社会福祉協議会、既存の町内会などとも連携を模索し、更に県内各所の支援団体との情報交流も図る。

- ①新たなコミュニティ形成(あすと仮設の80戸と他地域240戸の関係づくり、交流の場づくりなど)
- ②外部支援団体のネットワーク化(3ヶ所を効率的・継続的に支援すべく、協議会・連絡会を開催)
- ③県内他地域との情報交流(宮城県内復興公営住宅支援連絡会を開催)

本事業によって円滑に自治組織が形成され、多様な外部支援団体が良く連携してトラブルを未然に防ぎ、県内で新たな共助体制構築に関わるノウハウが共有され、住民が安心して暮らせる環境づくりを目指す。

## 連携図

3復興公営住宅入居者

新コミュニティ形成  
共助体制構築  
安心な暮らしあすと長町  
コミュニティ構築を考える会

アドバイス・協力

～東北工業大学～  
新井信幸准教授  
小杉学准教授  
学生たち～地元NPO～  
まざらいん  
アート・インクルージョン  
他2015. 8. 8  
支援団体交流会  
あすと長町  
仮設住宅集会所にて当日の議題は  
仮設住宅アンケート報告や  
災害公営住宅での暮らし、  
支援のあり方についてなど

# 持続可能な浜づくり

## ～地域資源を活用したものづくりと人をつなぐ～

地域活性・  
まちづくり芸術・  
ものづくり

事業主体：一般社団法人 はまのね

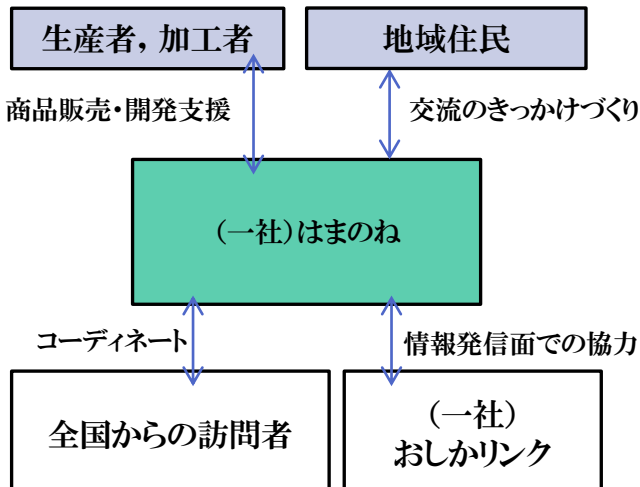
### 復興支援の概要

石巻市牡鹿半島蛤浜は東日本大震災の津波により2世帯5人まで減少した。蛤浜再生プロジェクトは生まれ育ったふるさとを残したいとして、住民を増やすことは難しいが、交流人口の増加を目指し、県内外から15,000人もが訪問している。

しかし地域全体では、震災直後のように支援で被災地を訪問する人や応援で購入して頂いていた商品の売れ行きも伸び悩み、非常に厳しい状況である。

そこで、「魅力ある浜の新しい暮らし」「伝統と革新」「石巻の資源発掘と発信」をテーマに、一次生産者、加工者、地元作家(デザイナーや母親たち)、地域資源を活かしたものづくりをしている人と連携した、商品の販売、開発を行い、石巻の魅力を発信する。また、若手作家の表現の場を作り、若者の移住・定住促進を目指す。

### 連携図



2015. 8. 25 東北工科大学学生によるワークショップ



2015.8.25 石巻の作家の作品展示・販売